【 B 指導・支援 】　4．併存障害の理解と対応（二次的な問題を中心に）　共通分野

発達障害は、精神障害などとの併存もあることを理解する。そのことを踏まえ、特定の障害特性にのみ結び付けることなく、その子どもの状態像に合わせた対応が必要であることを学ぶ。また、不適切な環境や対応の中で過ごすことで、二次的な問題からの併存障害を引き起こすことがあることを理解し、その対応方法について学ぶ。

◆主な内容◆

・発達障害に併存する障害

・二次的な問題が現れている状態像

（行動や学習上の不適応、身体的・心理的な問題、精神症状など）

・二次的な問題に対する支援

◆研修講座名（例）◆

「併存障害についての理解と基本的な対応」（講義 90 分）

・発達障害に併存する障害について概説する。

・強度行動障害、不登校やひきこもり、家庭内暴力、触法、うつなどのさまざまな精神症状といった二次的な問題が現れている状態像について概説する。

・氷山モデル等の考え方を活用し、二次的な問題が現れている行動の背景に、特性への配慮が不十分であることや適切な環境が整えられていない状況があることを概説する。

・特性把握の重要性、環境調整、チームによる支援、記録や分析の方法など、基本的な対応のあり方について概説する。

「二次的な問題への対応」（演習 90 分）

・受講者からの持ち寄り事例ないしは架空事例を用いて、グループで検討する場を設ける。

・必要な情報や、配慮すべき特性、適切な環境を把握し、どんな支援が考えられるかをグループで話し合い、それを全体で共有する流れで進行する。

◆到達指標◆（教育関係者・福祉関係者共通）

初級：併存障害の概要や二次的な問題の背景について説明できる。

中級：二次的な問題の背景を分析し、必要な取組を実践できる。

上級：二次的な問題の背景を分析し、他機関・他職種に対して、具体的な支援の方法を提案できる。

参考資料　39，70，108，109，121